

## 大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）中間評価結果表

大 学 名	北海道大学
整理番号	r - 1
事 業 名	極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) 本事業は、極東・北極圏地域の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家集団の育成するために、座学のみならずフィールドワークや分野横断的な学びを含む教育カリキュラムを構築し、段階別学修を通じて、学生が「極東・北極圏に関する専門力」のほか、多文化理解力、コミュニケーション力、企画・創造力、リーダーシップ力の4つの力を習得することを目的としている。  事業の展開においては、日本側のセントラル・オフィスと極東ロシアの相手大学5校全てにそれぞれ設けられたリエゾン・デスクとの連携のもとに、アカデミック・カレンダーの調整や単位互換のための単位成績換算表の作成、共同評価体制の整備、「共同修了証」の授与基準の設定など、大学間交流の枠組みの構築に教職員が積極的に取り組んでいる。こうした工夫を通じ、学生個々人の学習達成度を確認できる学修システムを構築したことは、高等教育の国際化事業に求められる質保証の観点からも大変意義深い。  事業運営にあたっては、相手大学と組織した国際運営委員会のもとに「RJE3 コンソーシアム」を設立し、ロシア側のニーズも踏まえながら教職員交流を推進している。また、企業や自治体、研究機関の関係者とともに RJE3 の同窓生が集う「持続的発展研究会」を立ち上げるなど、本事業の中長期的展開を含め、継続性を担保しようとしている点も評価できる。  中間評価までの派遣学生数については、初年度こそ目標が達成されなかったものの、次年度は達成されており、また、受入学生数については目標を大幅に上回る成果を上げている。  学生の長期派遣をいかに促していくかという点や、インターンシップの拡充に際し、実質的な取組を今後どのように展開するかという点は課題であるが、本事業で構築された連携モデルは、今後の高等教育における国際連携のモデルとしても参考になるものと考えられるだけに、補助期間終了後の持続可能性を含め、今後の展開に期待したい。	